

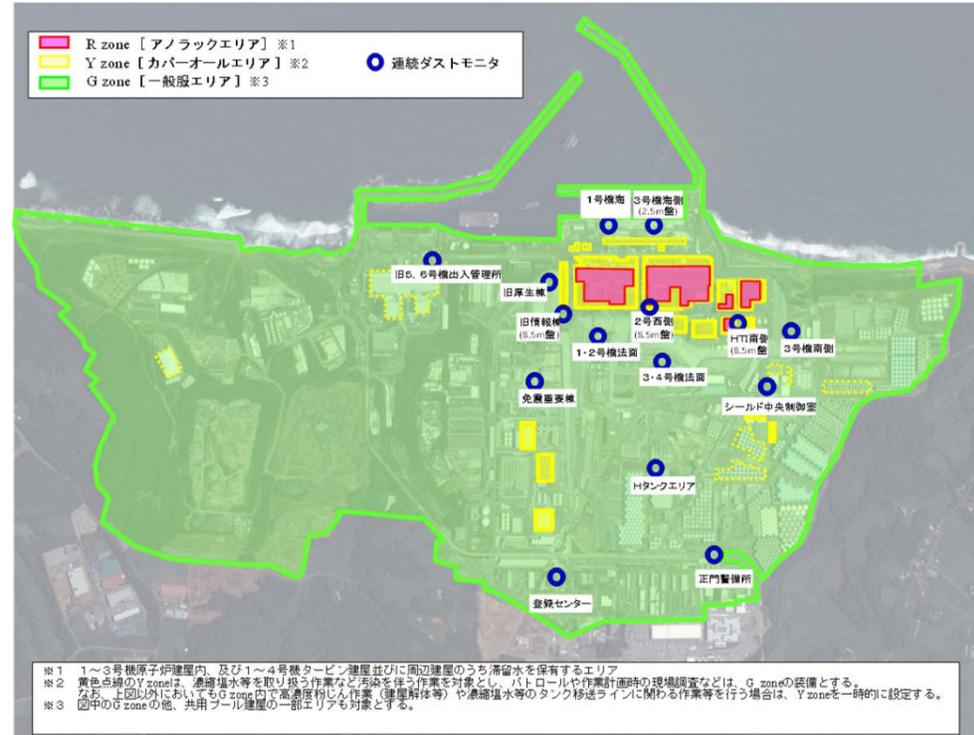
労働環境改善スケジュール

分類	活期	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定	10月		11月				12月			1月	2月	3月	4月	5月以降	備考				
				24	31	7	14	21	28	上	中	下	上	中	下	上	中		下			
労働環境改善	防護装備	1 防護装備の適正化検討	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> DS2マスク不要エリアの拡大の運用 全面マスク用アノラックの導入 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> DS2マスク不要エリアの拡大の運用 全面マスク用アノラックの導入 <p>※管理対象区域を3つのゾーンに区分し、各区分に応じた防護装備を着用することで、作業時の負荷軽減による作業性の向上を図る</p>	検討・設計																		
				現場作業																		
人身安全	2 重傷災害撲滅、全災害発生状況の把握	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力企業との情報共有、安全施策の検討・評価 安全衛生推進協議会の開催：災害事例等の再発防止対策の周知等 作業毎の安全施策の実施（TBM-KY等） 熱中症予防対策の実施（4～10月） 福島第一原子力発電所における熱中症予防対策の実施状況の報告 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力企業との情報共有、安全施策の検討・評価 安全衛生推進協議会の開催：災害事例等の再発防止対策の周知等 作業毎の安全施策の実施（TBM-KY等） 熱中症予防対策の実施（4～10月） 	現場作業																			
健康管理	3 長期健康管理の実施	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 検査対象者・医療機関等からの問い合わせ対応及び検査費用の精算手続き 2021年度対象者（社員）への「白内障検査」（柏崎刈羽）実施 2021年度対象者（社員）への「白内障検査」（本社）実施 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 検査対象者・医療機関等からの問い合わせ対応及び検査費用の精算手続き 	現場作業																			
健康管理	4 継続的な医療職の確保と患者搬送の迅速化	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1F救急医療室の2021年12月までの医師確保完了（固定医師1名+0-7-703支援医師） 1F救急医療室の1～3月の勤務医師調整 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1F救急医療室の1～3月の勤務医師調整 1F救急医療室の4～6月の勤務医師調整 	検討・設計																			
			現場作業																			
健康管理	5 感染症対策の実施	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の実施 インフルエンザ予防接種の実施 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策の実施 インフルエンザ予防接種の実施 	現場作業																			
要員管理	6 作業員の確保状況と地元雇用率の実態把握	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業員の確保状況と地元雇用率についての調査・集計 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業員の確保状況と地元雇用率についての調査・集計 	検討・設計																			
			現場作業																			
労働環境改善	7 労働環境・就労実態に関する企業との取り組み	<p>(実績)</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働環境・就労実態に関する意見交換及び実態把握 意見交換及び実態把握に基づく解決策の検討・実施・結果のフィードバック 相談窓口への連絡（処遇・労働条件等）への対応 作業員へのアンケートによる実態把握 <p>(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> 労働環境・就労実態に関する意見交換及び実態把握 意見交換及び実態把握に基づく解決策の検討・実施・結果のフィードバック 相談窓口への連絡（処遇・労働条件等）への対応 作業員へのアンケートによる実態把握 	検討・設計																			
			現場作業																			

2021年11月17日15時現在で、福島第一原子力発電所で働く社員及び協力企業作業員等において、新型コロナウイルス累計感染者数は、104名(社員10名、派遣社員1名、協力企業作業員92名、取引先企業従業員1名)、うち、9月2日以降の累計感染者数はゼロ
視察者の受入れは、緊急事態宣言の解除に伴い、10月1日より再開

分野 活 り	作業内容	これまで1ヶ月の動きと今後6ヶ月の予定		10月		11月				12月			1月	2月	3月	4月	5月以降	備 考
		24	31	7	14	21	28	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	

労働環境改善



管理対象区域の運用区分 レイアウト 提供：日本スペースイメージング, ©DigitalGlobe

2021年度福島第一原子力発電所における 熱中症予防対策の実施状況について

2021年11月25日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 2021年度熱中症予防対策計画



熱中症予防対策（4月～10月）

赤字：2021年度に追加・強化した項目

方針	目的	対策（アクションプラン）	
熱中症の意識向上 （教育）	熱中症教育の実施	社員・協力企業への熱中症教育の実施 協力企業からの熱中症対策での教育内容確認	
	熱中症予防対策 の周知	クールベスト・保冷剤着用の呼びかけ（WBGT値25℃以上） 熱順化の対応強化（作業時間の管理等） 情報掲示板・ポスター等での呼びかけ	
		熱中症の防止と 発症時	クールベスト・ 新型保冷剤（Y、Gゾーン） ・ 冷蔵庫配備・管理 、空調服促進（Gゾーン） WBGT表示器、測定器及び表示器の配置 WBGT測定器・表示器（ソーラー式）及び時計の運用 救急医療室（ER）での応急治療・緊急移送体制の確保 給水所の配備・管理
			協力企業と一体となった 確実な熱中症予防
作業環境の変更に伴う 身体負担の軽減	各ゾーンに応じた身体的な負担の少ない装備への変更推進 屋外作業時に日よけ使用の推奨		

WBGT（湿球黒球温度）：Wet Bulb Globe Temperatureとは、人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた暑さ指数のこと

2. 2021年度熱中症予防対策計画のポイント

＜熱中症予防対策 各種予防対策＞

① 2021年度新たな熱中症予防対策

○ 水飲み場・トイレ・休憩所の整備

- ・ 運用開始 6月～
- ・ 1/2S/B 1階装備交換所・2階休憩所



○ 保冷剤の運用改善

- ・ 完全に凍結した状態で保冷剤を提供するための冷凍庫増設（46台）や配置適正化
- ・ 新型保冷剤をGゾーンへ適用拡大（16,000個）

○ 空調服の導入（社員）

② 継続実施している熱中症予防対策



塩タブレットの配備



清涼飲料水の配備



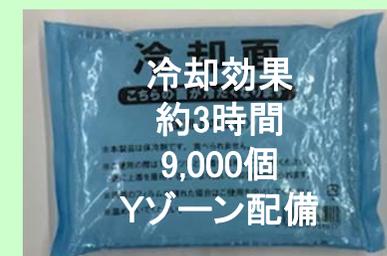
飲料水の配備



クールベストの配備

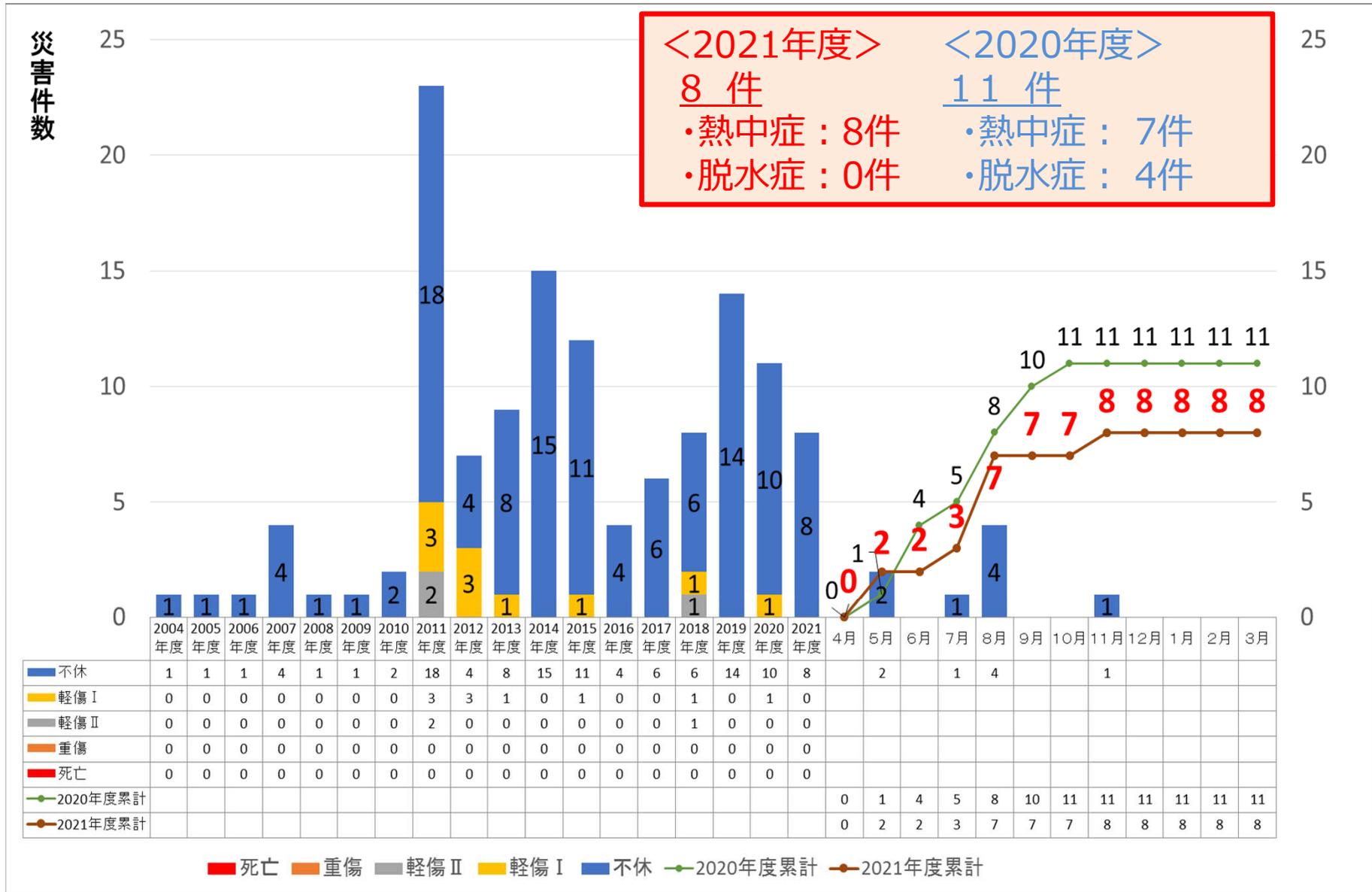


大型WBGT表示器、時計の配備



新型保冷剤

3. 実績 ～熱中症の発生状況（2004～2021年度）～



4. 2021年度熱中症予防対策の振り返り

(1) 症状の軽症化

・昨年同様に、軽症で抑えることが出来た。引き続き、救急医療室（ER）の利用促進を図って行く。

- 2021年度 熱中症：8件 脱水症：0件 計 **8件**
- 2020年度 熱中症：7件 脱水症：4件 計**11件**

(2) 発症者の共通事項

・今年度の傾向は、補正を含めたWBGT値が「**嚴重警戒レベル～危険レベル（28℃～31℃未満）**」の高温化の作業で、かつ全面マスクでの作業で発生。

(3) 発症を踏まえた反省点（工事監理員へヒアリングを実施）

- ・全面マスク作業員に対してWBGT値の補正を考慮する必要あり。
- ・作業時間（休憩時間、食事）が徹底されていないことによる塩分の摂取不足。
- ・既往歴、新規作業員への配慮不足。
- ・夏場の作業は、休憩が多くなるため、あらかじめ作業計画に反映することが必要。
- ・作業前に工事監理員が元請担当者と当日のWBGT値や予防対策などの確認が十分に行われていなかった。意識を高めるためにも確認のルール等が必要。

(4) 保冷剤の運用改善（良かった点）

・昨年不十分な冷凍状態で保冷剤を使用することがあったことや、2020年10月末より1～4号出入管理所の運用が始まり、人の動線が変化したことを踏まえ保冷剤冷凍庫の増設（46台）や冷凍庫の配置の適正化を図ることで運用強化を図った。